

講義名	教育課程論【教職科目】			
担当教員	水田 聖一			
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要
<p>教職に関する科目（教職課程及び指導法に関する科目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） <p>学校は、子どもに何を教え、何を学ばせるのか。この「何を」に当たる教育内容を、子どもの必要と社会的必要とに基づいて検討し、構造化し、評価するのが教育課程研究の基本課題です。そのような子どもの必要とは何か、社会的必要とは何かを誰が、どのようにして、何を基準として判断し、評価するかは、重要な教育問題であり、社会問題、政治問題でもあります。この講義では、そのような問題を解決するための思考力を身につけられるよう、歴史的観点など様々な視点から教育課程を考察します。</p>

到達目標
<p>教育課程の意義と歴史について西洋と日本について知り説明することができる</p> <p>教育課程編成の原理と方法について学び、説明することができる</p> <p>各高校の学校と教育課程の改革について学び、説明することができる</p> <p>教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）</p>

提出課題
<p>プレゼンテーション用パワーポイントを作成して発表してもらいます。</p> <p>課題提出・小レポート(感想・コメント)提出</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>プレゼンテーションの後、コメントと改善点を指導する。</p>

評価の基準
<p>定期試験・プレゼンテーション試験(60%)、発表・小レポート(40%)</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>毎回休まずに出席することが大切、欠席の多いものは成績も下がります。</p> <p>この授業では4回以上欠席者は、試験を受けられません。</p> <p>A以上の成績を多く取らないと、教育実習に行けません。</p> <p>テキストを購入しないものは、授業に出ることを禁ず。</p>

教科書	.よくわかる教育課程 第2版.	田中耕治	ミネルヴァ書房	2600	9784623082698

プリント資料及び参考文献
<p>高等学校学習指導要領・同解説 文部科学省ホームページ</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. [教育課程の意義] 教育課程(カリキュラム)とは何か、教育課程の意義、学習指導要領 2. [内容選択の基準] 何を重視するか(生活経験、社会の要求、科学、人間性) 3. [教育課程編成原理] 経験主義と系統主義、スコープとシークエンス、分化と統合 4. [発達と教育課程] 人間発達の理論、学習のレディネス、個に応じた指導 5. [教科書] 教科書の在り方と活かし方、教科書検定制度 6. [教育課程と教育環境] 学校建築、教室、学校図書館、教材と教具、学級編成 7. [カリキュラム評価] 学力の評価、授業の評価、アカウンタビリティ 8. [履修スタイル] 必修科目と選択科目、履修手続と修得主義、能力別グルーピング 9. [教科課程] 諸教科のカリキュラムの特徴、教育内容の精選 10. [教科外カリキュラム] 生徒指導、道徳の時間、総合的な学習の時間、特別活動 11. [近年のカリキュラム改革の動向] 環境教育、国際理解、メディア・リテラシー、食育等 12. [方法論] 「学び方」を学ぶ教育課程の編成と実践 13. [教育課程の歴史] 我が国の教育課程の歴史 14. [教育課程の歴史] 我が国の教育課程行政、学習指導要領の変遷 15. [諸外国の教育課程] アメリカのカリキュラム、イギリス、フランス、ドイツ等

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p> <p>キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>テキストに従って進むので、毎回予習・復習を行うこと</p> <p>毎回発表(パワーポイントによるプレゼンテーション)を課すので、内容をしっかりと調べてパワーポイントを作成し、わかりやすく発表できるようにすること。(4時間程度の準備が必要)</p> <p>特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。</p>

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
<p>商学部マーケティング学科では、企業環境をマーケティングの視点で捉え、現状を改善する努力を持続することができる学生を育てるので、自らが考え、判断し、主体的に行動することが大切です。</p> <p>この授業でも、プレゼンテーションにおいて主体的に取り組むことが大切です。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>パソコン・パワーポイント・ビジュアルボードなどを利用し、プレゼンテーションを行います。</p> <p>パワーポイントの中にインターネットを利用することもできます。</p>

実務経験の有無及び活用

備考
<p>教員の免許状(高等学校1級免許状・商業科)取得のための必修科目</p>